



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,787人
男子 3,352人
女子 3,435人
世帯数 2,088戸
(13年10月末現在)

小春日和に誘われて 新竜丘公民館で盛大に文化祭



当日は、開会セレモニーが玄関前にて行われ、参加団体を代表して五人の方々のテープカットで、文化祭がスタートしました。館内には、各団体・グループの、創意工夫された展示が、所狭しと飾られてあり、展示にあたっては、公民館では初めてのという事で、作品の飾り方や空間の利用に苦労したり、床や壁にキズをつけない様、手作りの小道具を利用したりと工夫が見られました。また、展示ごとの区切りが多くあり、全体的に、落ち着きのある空間になっていた様に思います。

催し物では、竜丘の商業バザー・新鮮野菜販売・大人の学校煎茶サーブが今年初めて行われました。バザーは、大変貴重な事もあり、みるみるうちに品物がはけ、大盛況のうちに完売しました。図書館で二日間行われた、紙芝居では、子どもたちが夢中になって、それを見て終わったときの皆の笑顔はとて輝いていました。大人の学校の展示・催しは、発足七年目で初めての参加となりました。大人の学校は、竜丘地区在住の六十歳以上の方々が構成され、現在十七のクラブが活動を行っています。学校内では、年一回各クラブの発表を行っていましたが、今回参加をした事で、お互いに励みになったとの事でした。

美り多き文化の秋を迎え、十一月十日・十一日の両日新築された竜丘公民館(生涯学習センター)にて、平成十三年度の竜丘地区文化祭が、特別企画展や、盛沢山の展示・催しで、盛大に開催されました。



がはけ、大盛況のうちに完売しました。図書館で二日間行われた、紙芝居では、子どもたちが夢中になって、それを見て終わったときの皆の笑顔はとて輝いていました。大人の学校の展示・催しは、発足七年目で初めての参加となりました。大人の学校は、竜丘地区在住の六十歳以上の方々が構成され、現在十七のクラブが活動を行っています。学校内では、年一回各クラブの発表を行っていましたが、今回参加をした事で、お互いに励みになったとの事でした。

民俗資料保存委員会では、地区内で盛んに行われていた養蚕の様子を展示しました。展示するにあたり、「おやとい」の様子や、「こだま様」の写真を撮りに行ったが、季節と時間のタイムングを取るの

桐林八幡社の掲額を尋ねて...

市民大学講座 第二講

竜丘公民館では「市民大学講座・第二講」を、去る十月十六日、桐林八幡社を会場に三十余名の参加者が集まり開催されました。今回の講座は、飯田文化財の会会員の塩沢義男さんを講師に迎え「竜丘の掲額を尋ねる」をテーマに、八幡社に保管されている掲額について「丘のみちしるべ」を教材に行われました。

掲額とは、昔テレビや新聞もなかった時代、大勢の人に覚えてもらったり、知らせる事として描くことこそ、生きる事であり、人生の無上の喜びである事を教えた「自己をいかにして人間的に成長させられるか」との事が、一番印象的でした。文化祭に参加しての感想を人々から聞いてみると、「きれいで良かった」「みんなが励んでいる事がよくわかる」などの意見が聞かれました。また、自由画がきれいに保存されている事に、驚く方が多くいました。催し物や、会場の数々の場面で親子の触れ合いも多く見られ、素晴らしい文化の祭典となりました。

身近できめ細かな福祉を

市政懇談会及び地域学習会開催

去る九月二十六日、公民館大ホールを会場に「竜丘から地域福祉を考える」と題して、市政懇談会及び地域学習会が開かれました。これは来年四月駄科に、中部デイサービスセンターがオープンするのを期に、地域の保健福祉とまちづくりを考え、誰もが住みやすい地域を実現するきっかけになればと開催されました。

第一部の学習会では、福祉の公民館と言われる松本市から、高齢者や体の不自由な方が、気軽に集まり多彩な活動をしている「福祉ひろば」の話で、それに携わる三名の方がパネラーとして、それぞれ活動の内容について話されました。進行の白戸洋さんは、国際協力活動のコンサルタントとしての経験を生かし、学生と共に地域活動に参加するなど、地域づくりの支え手として活躍している立場から、福祉について広い視野で話されました。矢久保学さんは、市役所福祉計画課に在る事から、福祉ひろばの設置、運営から、現在の活動の様子などを、行政としての対応も含めて話されました。六井洋子さんは、田川地区福祉ひろばのコーディネーターとして、地道な実践活動により、人と人を結びこみ、コミュニティーの輪を広げてきた経過を、住民の声も交えて話されました。また、地域の特性を生かして、身近できめ細かな福祉が大切であると、強く訴えました。



「一人ひとりが主人公」をテーマに、地域福祉を考えた。...



「人数がいると、より正しい解釈ができますね」と推奨され、全員が有意義な時を過しました。

平日の午後、ある小学校を通りかかったら、子どもを迎える親の中に知り合いがいた。聞けば長引く不況で仕事がなく転職を考えているのだという。来年度から小中学校は週休二日になる。「ゆとりある生活の中で、家庭や地域みんなの手で、子どもの生きる力をはぐくむ」ということらしいが、生活にゆとりを持つためにも景気回復に向けた構造改革の取り組みが急務である。

新しい公民館が建設され、開放的な雰囲気の中で学びの拠点として活発に利用されている。懸案の公民館までの狭い道幅も、拡幅工事の話合いがもたれはじめている。公民館前の市道は、小学校校庭東側の樹木を伐採し校庭側へ拡幅を予定しているそうである。小学校は教育の場であると共に、ここに暮らす人の想い出を共有できる場でもある。斜めにのびている大きな木に登れたときの感動は今でも憶えている人が多いのではないだろうか。そのシンボルとなる樹木が伐採されてしまふのは寂しい限りである。

市道拡幅は公民館や支所へのアクセス、消防団詰所などの防災的な視点からも必要不可欠であり、早急な整備が待たれるところである。周辺には墓地が多く移転などの問題から、ルートについても選択肢が少ないかと思う。公民館の建設に伴い市道拡幅も検討されてきた中で、安全な居場所を地域も一緒に考えていきたいものである。

ヤフー

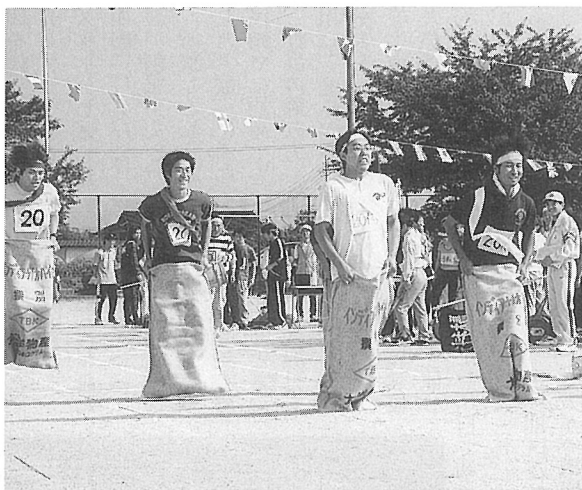
みんなの願い天に届く 竜丘市民運動会

好天に恵まれ 盛大に開催

十月七日(日)、竜丘小学校グラウンドで市民運動会が開催されました。昨年は雨で中止になり残念でしたが、今年は何れに恵まれ、多くの参加者が気持ちの良い汗を流しました。分館対抗競技は特に熱戦が繰り広げられ、時又分館が僅差で優勝旗を勝ち取りました。

午前八時三十分の開会宣言に引き続き、小学生による聖火リレーが入場し、運動会の幕が切って落とされました。昨雨が雨で中止だったということで天候が心配されましたが、さわやかな秋晴れの下で二年振りに運動会が開催されました。

準備運動に続いて、小学生、保育園、幼稚園児による「かけっこ」が行われました。子どもたちは、元気一杯でしたが、終始マイペースの園児もいて観客を楽しませてくれました。



メドレーリレー いよいよスタート

分館対抗の採点種目ではメドレーリレーが最初に行われました。「樽転がし」では、気持ちは走っているのに肝心の樽が右や左へと転がり苦労している選手に、ひととき高い声援が送られていました。また、三十代男性の「タイヤ引き」は、各分館体力自慢の選手をそろえ、迫力ある競技となりました。砂煙を上げてタイヤを引く姿に応援にも力がかもりました。

同じく採点種目の「素敵なカッパル」は借り物競走ならぬ「借り人競走」で、本部役員や、来賓の方を探して手をつなぎゴールするというものですが、借りられた来賓の方が逆に選手を引きずるようにゴールする光景も見られました。

午前中最後の「オールスターリレー」は、各分館を代表する草駄天の皆さんが素晴らしい走りを見せてくれました。リレーの前半は年齢、性別によって走る順番が決まっていますが、後半は分館の自由ということになり、最終走者まで順位が判りにくくなっているのですが、時又分館が圧倒的な速さでゴールを切りました。

「幸運は誰の手に」は、公民館館長が箱の中から引く玉の色を予想するという、「運」が頼りのゲーム。ほぼ全員参加の中で最後まで勝ち残った強運の持ち主は小学生の善波さん(時又)で、賞品の温泉ペア宿泊券を手に入れました。

その他、採点種目では、「玉入れ」や、二人三脚で走る「各種団体リレー」など、おなじみの種目で熱戦が繰り広げられました。

最終種目の「年次むかひ(男子)」の前の段階で、一位時又と二位駄科の点差はわずか三点。逆転可能な点差でしたが、結果的に時又が逃げ切り、七年ぶりに優勝しました。以下、上川路駄科(上川路と同点)、桐林長野原で、応援大賞は駄科という結果になりました。

なお、優勝旗は昨年龍光電気工業(株)さんからの寄付で新調したものです。昨年度中止だったため今年がお披露目となりました。

思い出に残る成人式に 竜丘公民館で行う

竜丘公民館で行う

今まで全市的に行われていた成人式が、今年度からは各地区ごとに行われるようになりまし。

竜丘地区では、地域あげて新成人を祝い合い、これからの地域を担う若者たちに愛情と理解を深め、一方、成人自身は社会的自覚と

域に対する理解と愛着をもてるような交流の場と捉えて、平成十四年一月十三日(日)午後一時三十分から、竜丘公民館で行われます。

一生に一度の成人式が、何よりも思い出に残る素晴らしいものとなるようにと、六名の新成人が実行委員となりたいと思います。

なり計画を立てて進められてきました。全体を三部構成とし、第一部記念式典、第二部記念行事、第三部記念祝賀会と計画しました。

特に第二部は、成人全員が参加して、思い出のタイムカプセルの開封や、二十歳のメッセージなどが紹介されます。

この成人式を通じて、成人自身が地域社会へ参画する第一歩となることを期待したいと思っております。

ご協力に感謝して「ごあいさつ」 公民館建設会計の報告にあたって

公民館建設委員長
伊藤 隆 直



時は二十一世紀に移行し、早や十ヶ月余りが過ぎました。

長年の地区の皆さんの念願でありました竜丘公民館が、飯田市並びに関係各方面の皆様のご努力と地区内の皆様のご協力により立派に完成して半年が経過しました。新公民館の建設にあたりましては、設備品や環境整備充実のため、貴重な御寄付をお願いした回りました。

と、当初計画を上回る程の浄財を寄せていただき感謝の他ありません。

当初の施行計画に従いまして、竣工時の施設備品の分と活用運営するための補充品等の清算が、一段落し、過日、会計を締め監査を受けて報告をいたすことが出来ました。

報告にありますが、予備費が当初見込みより上回りました。

この残金予備費は、これからの施設備品の保全及び活動のため、有効活用に使立てるよう考えてまいりました。

従って、残金の予備費の使途運営につきましては、自治会と公民館の役員による、「竜丘公民館管理委員会」が担当、第二次整備計画を樹立し慎重に執行するようしてまいります。

施設備品の調達については、当時の建設委員が鋭意努力し、丈夫で長持ちのする物品購入の取配をとり、地元商工会と協力をすることで良質の施設備品が安価で

購入でき、整備することができました。

このように多くの皆様方のご努力によりまして完成した竜丘公民館であります。

今後、竜丘公民館が生徒学習センターとしての役目を果たし、教育、文化の振興と世代を越えた地域交流の場となるよう、私共懸命の努力を払ってまいりたいと考えております。

そして、この施設が竜丘地区の発展の拠点として多くの皆様方が活発にご活用申し上げご挨拶とします。

竜丘公民館建設委員会決算書

収入総額 78,121,307円
支出総額 61,420,142円
差引残高 16,701,165円

〔収入〕			
項目	決算金額	備考	
寄付金	77,746,950		
個人寄付金	41,628,500	地区内個人 1,551件	
法人寄付金	11,836,450	地区内外法人 96件	
一般篤志寄付	3,280,000	地区内外一般 34件	
東京竜丘会寄付金	7,502,000	東京竜丘会会員 87件	
蒜田再開発委員会寄付金	12,000,000		
竜丘地区環境衛生組合寄付金	1,500,000		
諸収入	374,357		
雑収入	374,357	預金利息、祝賀会費、ご祝儀他	
収入合計	78,121,307		

〔支出〕			
項目	決算金額	備考	
施設整備費	11,228,567		
舞台設備費	5,769,750	緞帳、諸幕、舞台照明	
カーテン工事費	2,100,000	カーテン、ブラインド	
その他整備費・工事費	3,358,817	案内看板、銘板、屋外実習室屋根他	
備品費	39,732,040		
備品費	39,732,040	会議机、椅子、図書館什器、音響機器他内部備品	
環境整備費	5,433,173		
造園費	5,433,173	外観及び中庭造園、公民館名碑	
催事記念事業費	3,474,238		
催事費	2,325,612	竣工記念品代(丘のみちしるべ)、竣工式、祝賀会	
記念事業費	1,148,626	記念事業公演料(落語・人形劇)他	
事務費	1,552,124		
賃金	143,000	建設関係事務賃金	
報酬	50,000	感謝状筆耕料	
旅費	121,176	寄付依頼旅費	
食糧費	409,109	会議時賄費、引越時賄費	
需用費	626,422	事務用消耗品費、印刷費、写真代、通信運搬費	
雑費	202,417	引越業者委託料他雑費	
予備費	0		
支出合計	61,420,142		

竜丘公民館建設委員会会計について監査したところ、帳簿ならびに証拠書類等正確かつ適正であることを認めます。

平成13年11月20日

監事 熊谷 和男 印
関島 文次 印